
しろはく活動記録

古地図と城の泉 第23号

謎の天満御陣営図

篠山藩慶安2年福知山城攻陣立

桜井成広・本田昇所蔵資料目録

江戸初期小諸領絵図2点

箱根登山鉄道鳥瞰図原画

朝鮮輿地図 木版13図日本含

平成27年10月1日

しろはく古地図と城の博物館 富原文庫

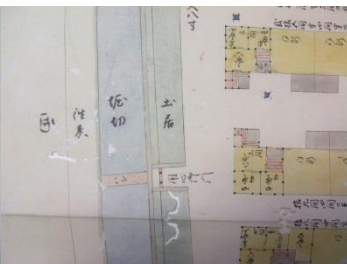
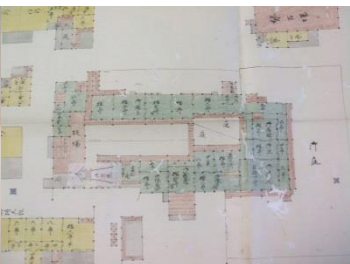
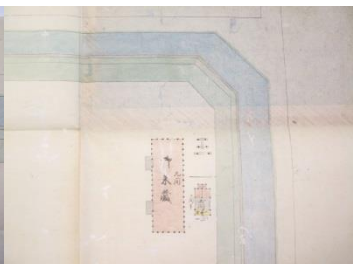
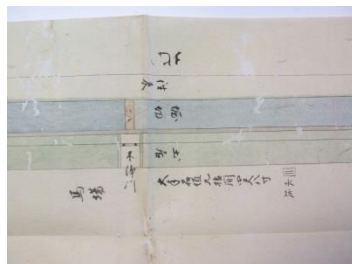
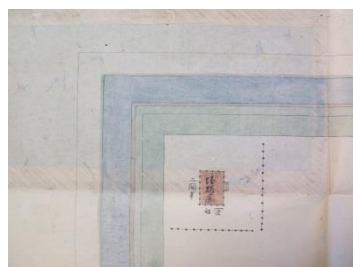
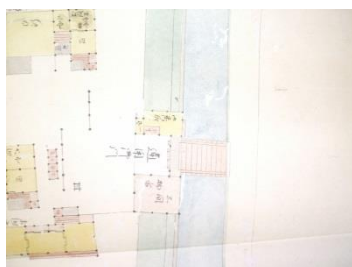
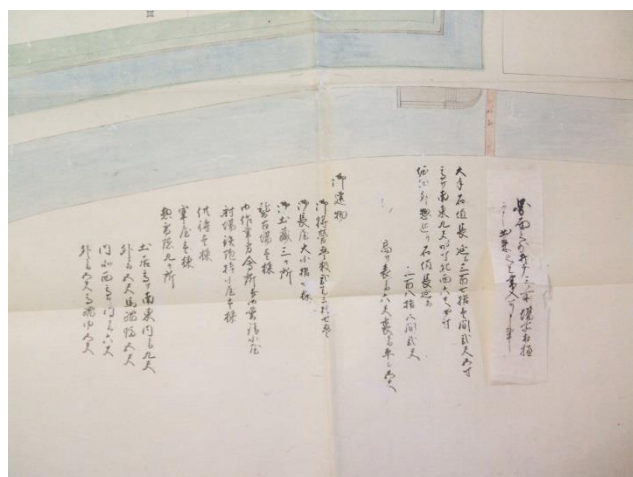
城郭現地調査報告及び資料調査

博物館事業報告

1・謎の天満御陣営図

彩色絵図 108 x 120 cm 1辺200mほどの堀、石垣、土塁に囲まれた防御施設が描かれている。南に大手があり、8間四方の内枳形を形成している。さらに南に堀より広い河が流れる。絵図には西南に武具蔵、裏鬼門除け、東部に通用御門、西北隅に塩硝蔵、北に不浄門と馬場、東北角に鬼門除けと御米蔵、西に用心御門、中央に御殿、周囲に14基の長屋、御殿裏に稽古場がある。さらに精緻に建築間取りが描かれており、作事方会所、射場鉄砲小屋、供待、牢屋、雪隠まで描かれている。縄張は近世の構造、城郭構造である。本能寺のような防衛寺院にも見えるが、内部に寺院建築のような建造物は見当たらない。天満にこのような施設の記録はなく、天満本願寺も検討してみた。天満本願寺は信長によって大坂を退去させられて以降、秀吉によって紀州鷲森から、泉州貝塚、天満、京都と目まぐるしく移動させられる。天正13年1585年4月秀吉による沙汰があり、今の造幣局のあたりに移築させられ、天満本願寺跡発掘調査報告書Ⅰによると8月4日から阿弥陀堂の建立に着手し、30日には門主顕如が移っている。天正19年1月1591年京都に移転させられた。わずか7年の遺構であり、その構造はよく知られていない。絵図は戦国大名に相当す

る山科本願寺の要塞や、500 x 800 mといわれる石山本願寺城のような強度な防衛施設ではない。秀吉がそのような建築を本願寺に許すとは思えない。唯一の研究である伊藤毅氏の「摂津天満本願寺寺内町の構成」では秀吉が寄進した寺内町の規模は東西7町、南北5町(760 x 545 m)とされ、その位置も確定しておられるが、そこでは、ルイスフロイスの記述として、秀吉は不穏な動きを抑制するために、「街の周囲に垣を設けたり、濠を作ることを許可しなかった」とある。絵図には阿弥陀堂等の寺院建築は見られず、又、堀土塁があり、本願寺でないことは一目瞭然である。絵図の正体は入手後20年を経過し、謎のままである。あえて言えば、天満御陣営図という題箋にも、疑問がある。本紙上に天満の文字は見当たらないうえ、位置情報は記入されていない。天満という地名も大阪以外に見当たらない。



2・前回掲載熊本城御城内絵図について

熊本城調査研究センターさんからご連絡をいただいた。所在不明とした御城内絵図は熊本藩主細川家お抱え絵師狩野家の御子孫から平成26年、昨年11月14日にセンターに寄贈されたとのこと。富原文庫本御城内絵図は昭和36年の写しですが、原本絵図には付箋等の剥離もあり、調査に来られるとのこと。同センターの木下泰葉氏の調査では絵図は多数の書き込みから「18世紀後半の熊本城内の状況を確認できる唯一の資料」としている。また、飯田丸の調査では多数の書き込みから絵図は「元文3年以降の熊本城内の建築物の解体を記録し、明和6年に予定された改修箇所の未着手分を示したものと想定できる」とされている。先に絵図の写しが、昭和9年の熊本市教育委員会所蔵図とお伝えしたが、これも熊本博物館所蔵に移管されているとのこと。調査研究センターの絵図は原本であり、この昭和9年の写しと奈良文化財研究所所蔵のガラス乾板があり、本丸中心部のみ撮影されているという、これは原本の撮影ではないという。本絵図は熊本城調査研究、復元の建築平面基本図として捉えられている。遠路来訪されるとのことですので、富原

文庫所蔵熊本城南面図版木や明治11年の市街地図等関連資料を準備できればと考えて居る。

日程調整の結果、こちらで詳細な検討をしていただくには無理があると判断し、原品確認、撮影調査の後、必要があれば絵図をお貸し、熊本で原図と比較し調査していただくこととした。

3・本田昇青焼縄張図57城目録

本田昇さんの縄張図集が刊行されましたが。整理していたら、彼の図面が出てきました。図集に収録されているかどうかは確認していませんが、すべて青焼き、焼けなし、保存状態は完全、彼の朱印が押してあります。順不同です。本来彼の13回忌に出てくればよかったのですが。追悼号には探されませんでした。彼の貴重な活動記録です。当時の彼のすべての縄張図かと思います。もし、図集に未収録であれば、画像を公開します。

狩野城 静岡県田方郡天城湯島町 1975・2・10 1200分1 2枚
柏久保愛宕城 静岡県田方郡修善寺町 1975・2・9 1200分1 2枚
田代(古)城 同所 1975・2・9 900分1
沢山城(三輪城) 東京都町田市三輪町 1891 1972・10・9 1974・11・9 3
000分1
鎌田城 静岡県伊東市 1975・2・11 1300分1
亀浦城 1976・11・22
宮野城 群馬県利根郡新治村猿ヶ京
箱崎城 群馬県利根郡新治村布施
甲斐要害山 甲府市上積翠寺丸山 1972・1・16 1250分1
躑躅ヶ崎館 甲府市古府中町 1972・1・15 1500分1
遠江諏訪原城 静岡県榛原郡金谷町牧ノ原 1971・11・24 1250分1
遠江小山城 静岡県榛原郡吉田町上吉田 1972・11・5 1300分1
信濃岡村城 長野県小県郡川西村岡 1972・5・6 1200分1
興国寺城 静岡県駿東郡原町根小屋 1974・2・9 1400分1
伊那大島城(台城) 長野県下伊那郡松川町 1974・4・2 1000分1
武蔵杉山城 埼玉県比企郡菅谷村杉山604番地 1971・11・14 1973・4・7 1
973・11・23 1974・5・11 1250分1
八王子市片倉城 昭和45年4月29日 50年5月1日 50年6月1日 1000分1
上州根小屋城 1970・9・28 1974・2・24 1250分1
辛垣城 東京都青梅市 1971・5・17 1975・4・20 1000分1
武州松山城 埼玉県比企郡吉見町 1972・11・12 1250分1
信濃替佐城 長野県下水内郡豊田村大字豊津字北大洞 1973・3・25 1350分1
近江観音寺城 滋賀県蒲生郡安土町 昭和45年8月26-31日 昭和46年3月2-4日
22-23日 1250分1
高天神山城 静岡県小笠郡城東町上土方 1973・3・4 1250分1
山中城 千葉県山武郡芝山町山中 1974・3・17 1000分1
青梅市勝沼城 1971・5・9 8・7 1500分1
慶南の倭城趾要図 100万分1
白山城 韮崎市神山町 1973・1・14 2枚
多聞山城 1969・1 3000分1
枅形城 青梅市(辛垣城東南) 1975・4・20 1000分1
越中増山城 1974・10・12 1000分1

林城 茨城県鹿島郡大野村 1975・2・6 1250分1
 岩村城 岐阜県恵那郡岩村町 1974・11・30
 郡上八幡城 1974・12・2 1500分1
 広島城 1972・8・27 1000分1
 松倉城 1973・5・3 1250分1
 川崎城（塩谷城） 栃木県矢板市川崎反町館川地内 1976・2・21 1250分1
 吉田城 1973・3・3
 人吉城 熊本県球磨郡人吉町 2000分1
 喜連川城 栃木県塩谷郡喜連川町 1975・3・22
 戸倉城 東京都西多摩郡五日市町 1971・9・26 10・31 1250分1
 太田原城 1975・2・21 1250分1
 羽生田城 栃木県下都賀郡壬生町 1975・3・23 1250分1
 小山城 栃木県小山市 1974・11・17 1250分1
 福山城 広島県福山市 1972・8・25 1000分1
 白旗城 栃木県那須郡黒羽町 1975・3・21
 足利氏館 栃木県足利市家富町 1975・5・11 1250分1
 中城 1975・1・1
 木原城 茨城県稲敷郡美浦村 1975・2・16 2500分1
 東林寺城 茨城県稲敷郡牛久町 1974・4・28 2500分1
 唐沢山城 1974・12・9 1250分1
 犬飼城 栃木県宇都宮市 1250分1
 福岡城中心部現状 1976・11・27 1500分1
 津山城 岡山県津山市 1972・8・29 1500分1
 大和信貴城 奈良県生駒郡平群町信貴山 1970・12・25 1500分1
 武蔵滝山城 八王子市 1971・3・29 以降7回省略 1500分1
 上総土気城 1973・1・21 1・27 1250分1
 春日山城・春日山城2 新潟県上越市 1972・4・29－30以降3回5日 1200分1

これらは昭和54年生前、本田昇氏より手紙ともに、恵送いただいたものです。57城をリストアップしましたが、当時、これらの複製、出版を検討しており、図面サイズがまちまちで、大きいものは縮尺の必要があり、完成しませんでした。

縄張図は大体1250分1を基本にされていたようです。地域は遠く沖縄にまで及んでいます。巨大で著名な城郭も何日もかけて調査される一方、1日で素早く調査された例に彼の技量を感じさせます。城名、所在地、調査年月日、縮尺をリストアップしました。未記入のものは未記載です。縄張図に彼の業績を見、改めて、本田昇の冥福を祈ります。

同じ資料群に小生の和田山城調査図（加賀国能美郡寺井町和田）2百分1昭和54年5月や摂津芥川城調査図昭和51年11月25日もあり、懐かしい思いでした。

4・桜井成広作成城郭資料所蔵目録

桜井先生がなくなられて、どれほど経つだろうか。日本城郭協会学生研究会顧問として、日本城郭近畿学生研究会のお世話もしていただいた。その桜井先生の作成資料が5年以上前に古書市場に出て、できるだけ揃えるようにした。思えば先生の八王子の城郭博物館にお誘いいただいて、訪問できずにお別れした。

1・山鹿図大坂城本丸（生写真）35，5 x 43 cm 陸軍参謀本部旧蔵焼失絵図

2・山鹿図大坂城本丸 桜井成広写彩色絵図 31 x 40 cm 「陸軍築城部本部本邦築城史編纂委員会保管品、偕行社所蔵品、昭和十一年春、桜井成広透写、昭和十二年二月二十八日大阪毎日新聞に発表、原品は昭和二十年の空襲にて焼失という。」と桜井の自筆記事。原寸複製絵図

なお、富原文庫には中井家の2枚、広島浅野文庫の1枚に続いて、現存4枚目、紙上5枚目の『摂州大坂本丸』と記された図がある。又、井上宗和による浅野文庫豊臣本丸図の肉筆写しも所蔵している。

3・山鹿図城塞釋史所収豊臣時代大坂城本丸図 42 x 57 cm 昭和33年桜井成広再透写図彩色絵図

4・3図の青焼き

5・豊臣時代大坂城本丸（天正時代と推定） 参謀本部及び中井家絵図に基ずく桜井の復原図 彩色絵図 38 x 48 cm

6・豊臣大坂城本丸製図版下 28 x 39 cm

7・1図コピーに着色 30 x 42 cm

8・豊臣時代大坂城本丸図 6を印刷した図 22 x 31 cm

9・豊臣時代大坂城本丸復元地図 昭和46年 40 x 56 cm 彩色絵図

10・9図コピー3枚

11・模型の復原図 昭和33年 彩色絵図 42 x 57 cm

12・豊臣氏時代大坂城本丸推定図 1300分1 昭和46年4月17日完成 赤字記入1色 38 x 49 cm

13・豊臣時代城本丸推定図 昭和33年 35 x 42 cm

14・豊臣時代大坂城本丸図 桜井成広修正図 昭和46年 39 x 51 cm

15・豊臣時代大坂城本丸図 赤線書き 32 x 51 cm

16・豊臣時代大坂城本丸図模型製作用 30 x 41 cm

17・豊臣時代大坂城本丸図 昭和26年4月 38 x 54 cm

18・豊臣氏徳川氏大坂城本丸古今対照図 昭和26年 38 x 49 cm

19－23・18図の考証図

24・18の印刷図 22 x 32 cm x 2枚

25・1と同一写真

26・中井家2図、浅野文庫図のコピー多数

27・豊臣時代大坂城本丸図の修正第4図 昭和33年 青焼 42 x 59 cm

28・徳川氏大坂城本丸図 昭和33年 青焼き 42 x 59 cm

29・豊臣時代大坂城天守推定復原図・東西断面・南側立面・阿部備中守時代大坂城本丸図等18枚コピー

30・豊臣大坂城全城図・徳川豊臣対照図・大坂御城御本丸略絵図文化6年・豊臣大坂城天守復元図・豊臣大坂城本丸図2枚等からコピー

31・聚楽第推定復原図 昭和17年 カラーコピー

32・徳川時代大坂城山里曲輪図 昭和22年写コピー

33・高田城3重櫓復元資料 鉛筆書き推定復原図等25枚

34・天秤町と分銅町 岩田重雄

35・安土城原稿10枚 桜井成広

36・徳川氏時代大坂城本丸図 36 x 48 cm

37・大坂城本丸内ボーリング地点該略位置図

- 38・徳川氏大坂城本丸図 昭和33年 41 x 53 cm コピー3枚
- 39・38図コピー
- 40・徳川氏時代大坂城本丸図1300分1地図 41 x 80 cm 赤書原図とコピー5枚
- 41・大坂城古写真コピー4枚 31 x 44 cm x 4枚
- 42・近世日本覇府豊臣氏の大坂城徳川氏の大坂城25000分1比較研究図 平成2年より平成3年 43 x 60 cm 原図とコピー
- 43・豊臣時代天守推定復原図 青焼き2枚 32 x 60 cm x 2枚
- 44・信玄館鳥瞰図下絵 昭和26年 37 x 60 cm 原画とコピー
- 45・安土城趾天主閣附近図 600分1 コピー 57 x 49 cm
- 46・後藤林太郎氏書状地図 安蘭城図 小田原の役の際の北條方水軍城
- 47・古写真類コピー数十枚

以上は2冊の大型ファイルに収納されている。

- 48・戦国名将の居城抜粋 現存する豊臣の血統 桜井成広 コピー5部
- 49・安土城趾天主閣附近図青焼き 昭和44年4月富原道晴君恵贈とある
- 50・トレペ大坂、江戸周辺図
- 51・安土城天守推定断面図、平面図 鉛筆書き草稿8枚
- 52・松岡利郎安土城本丸推定復原図鉛筆書き 手紙 昭和41年10月12日
- 53・NHKスペシャル復原安土城。黄金の天守 平成4年7月5日21時 台本
- 54・特別史跡安土城跡修理工事報告書I写真版コピー
- 55・東海古城研究会機関紙『なつくさ』1-18号 昭和40年-42年 柳史朗
- 56・安土城天守資料 模型写真13枚・指図写真10枚・郷君発見鯨瓦断片写真・実測図・シャルボア安土城
- 57・富原送付安土城資料 シャルボア・近江名所安土城・古都・実測図
- 58・特別史跡安土城跡発掘調査の成果 安土城郭調査研究所
- 59・安土記九 蓬左文庫所蔵コピー 三種
- 60・銅の城安土城の天主閣 井上宗和 銅ものがたり
- 61・安土城天守の外観 桜井成広 城郭ニュース 3部
- 62・富原道晴氏礼状
- 63・安土城天守の推定復元模型 城郭連載 1-5
- 64・日本城郭協会近畿学生研究会設立記念第1回近江八幡城・安土城見学会パンフレット
- 65・城郭及び建築絵葉書 御香宮5枚・西教寺2枚・有馬城跡妙見山之景・高輪旧景・芝旧景・品川町並・福山城天守・伏見櫓・荻原一青尼崎城版画・津城趾・大仏方広寺・妙法院・城郭縄張古図・豊国廟
- 66・桜井成広宛手紙、版画、写真、絵葉書類。自筆資料数100枚
- 67・伏見東本願寺桃山城物見御殿

以上、桜井先生がいかに多くの方を指導されていたか、窺い知る資料でした。なお、富原文庫にも豊臣大坂城本丸図を所蔵している。

5・江戸初期小諸領絵図・小諸領内絵図立科周辺図

小諸領之図とする国絵図形式描画方法の彩色絵図 152 x 240 cm 年代の記載はないが周囲に知行書として、仙石越前守武石領、塩田組、水野隼人正知行松本領江、松平采女知行、上州蒲原領真田伊賀守知行が記入され、内、真田伊賀守は在任1635-1688年、水野隼人正忠直は1668年藩主に赴任していることから、1668-1688年の絵図と推定される。陸軍省の

明治5年巨大な小諸城絵図とともに、改めて公開できればと考えて居る。

此の後、8月26日地元の骨董商から小諸領内地図を紹介された。立科町周辺のみであるが、はるかに大縮尺で描かれており、**細谷新田に古城のような地割**が見えるが、該当地に既存遺跡は存在しない。



6・久保田光亭水墨画昔日堀端八景集

駿府城周辺風景 1985年 久保田光亭水墨画集 色紙8枚解説付き 三日月堂版 限定150部 タトウ・元箱入り 大判色紙に印刷 北間橋・二ノ丸橋遠望・水枯れの中堀等8枚

新収集情報報告

掲載は入手順に入手後、翌日に記載しています。メモ代わりの備忘録ですので順不同です。

掲載分類は城郭図、城郭錦絵は城郭、群馬地図、資料は群馬、錦絵地図は錦絵、地図類は航空写真も地図、錦絵軍事、砲術、調練は軍事、後はタイトル通りです。

1・古絵図・古地図

最新番地入り実測大横浜市全図 昭和5年 55 x 78 cm 日本地理附図研究所 裏横浜市
中区詳細図・横浜名所案内・横浜市新町名表

日光山廻場絵図 肉筆彩色絵図 39 x 54 cm 日光の守備担当を記入した絵図 滝尾松平
丹波守廻場・龍岡坊板倉伊予守廻場・小采川内藤大和守廻場・足尾口松平周防守廻場

新選大日本地図 明治21年 銅版色刷 74 x 101 cm 千島諸島含む

名所画入諸方道中記全 明治20年 木版 三上真助 14 x 138 cm

官許飛驒国全図 内題官許飛驒国中全図 明治木版色刷 59 x 81 cm 松村梅幸

田園調布5000分1地形図 昭和21年仮製版 日本地形社 79 x 107 cm

北田氏等面積世界白地図 昭和16年 北田宏蔵 古今書院 47 x 79 cm

椿岡等面積世界白地図 昭和10年 北田宏蔵 古今書院 67 x 94 cm

精密東亜白地図 79 x 110 cm 古今書院

横須賀市及三浦めぐり 常光鳥瞰図 昭和6年 17 x 70 cm

小諸領絵図 細谷新田・茂田井村・芦田町周辺図 題、年代は記入されていない。通常であれば収集対象外であるが、**細谷新田に古城のような田と畑の地割**が見られる。『長野県の中世城郭跡』掲載地図上で検索したが、該当地に城跡の記載はない。先に紹介した小諸藩領図と比較しても部分的であるが、はるかに大縮尺で描かれている。 121 x 170 cm 彩色絵図 別に写真掲載

神奈川県管下久良岐郡日野村縮切図 明治10年 小原與左衛門編 アトラス 日野村は日下村となり、昭和2年**横浜市中区**となる。日野村全図と27の詳細字切図

嘉永2年新潟真景不老志貴 花田屋 90 x 93 cm 複製風呂敷

江戸絵図 天保補益再版1830年一 高井蘭山校訂 木版色刷 タトウ入り 70 x 92 cm 吹き出し付

江戸地図 文久元年改正1861年 村田屋彦兵衛板 木版墨刷 タトウ入り 69 x 95 cm 吹き出し付

皇都細見図 元治新撰1864年 木版色刷 52 x 75 cm 京都地図

海陸道中大日本早引道中記 内題大日本道中早引細見図 天保8年1837年再刻 39 x 118 cm 木版墨刷

改正京町絵図細見大成洛中洛外町々小名全 天保2年竹原好兵衛 考証池田東^籍亭画工中邑有楽斎 木版墨刷 最大の木版京都絵図 144 x 176 cm

下野国全図全 藍澤甲子太郎著 明治18年 銅版 48 x 69 cm

朝鮮輿地図 天下図・中国図・東国八道大^摺(朝鮮)・咸鏡道・江原道・京畿道・忠清道・全羅道・慶尚道・黄海道・平安道・日本図面・琉球図面 木版13図 30 x 494 cm

箱根 箱根登山鉄道鳥瞰図原画 東京鉄道交通社図案部峰華画 小田原から強羅までの鉄道、強羅から早雲山までのケーブル、上部に芦ノ湖、箱根町、富士山が描かれる。ポスター原画と思われる。 115 x 165 cm

大日本分県趣味之旅行図 千葉県 千葉市多田屋中等教科書部 28 x 79 cm

増補改正今井谷六本木赤坂絵図 嘉永3年 尾張屋清七 木版色刷 49 x 53 cm

大阪市区分地図 此花区・西淀川区・北区 和楽路屋 55 x 79 cm 全十五区内

大日本早引細見絵図 安政4年 絵図屋庄八 37 x 149 cm

増訂伊豆七島全図 五百部限定 長山貫録 木版色刷 80 x 102 cm

新刻日本輿地路程全図 弘化3年1846年 栗原信玄 74 x 100 cm

2・古典籍・古記録

改正官員録全 明治17年 横本309丁

三玉和歌集類題 全7冊 木版 元禄9年1696年刊寛政4年1792年再板 松井幸隆編 春夏秋冬各部、恋部、雑部上下2冊計7冊 和装本

豪傑勲功録 全10冊中第2巻欠9冊 文政8年1825年 摂都暁鐘成編画図

太平記 元禄11年1698年 木版絵入本全40巻11冊 横本 題箋欠 第1巻表紙欠 木箱入り

絵本甲陽軍記 巻1総目録・巻1 木版

太閤軍記巻1ー3 古刊本 木版 3冊 安土山殿守焼亡の事・朝鮮国御進発の人数帳肥前国名護屋在陣衆 太田牛一

太平記 全40巻内巻初(総目録・剣巻)・第1・2・3・4・9・10・13・14・21・22・23・24・39・40 8冊

北條五代実記 全10冊 天明3年1783年 木版

源平盛衰記 全48巻目録1冊全25冊内1冊巻23・24欠 木版 寛政8年1796年刊

秋田杉直物語 明和2年1765年 秋田佐竹騒動 全10巻3冊

絵本朝鮮軍記 全20巻20冊内11－14・16－20巻9冊 寛政12年1800年 平壤城大合戦・倭軍自焼朝鮮王城・大明国正使見太閤・明大軍朝鮮発向・清正入蔚山城兵飢渴・太閤醍醐観花・加藤左馬之介水戦・伏見城に於て秀吉公薨去・凱陣の諸将伏水城に到る等合戦図多し

3・印刷資料

黒谷和紙製造工程型染め20枚・徳川期黒谷村絵図型染め 33x48cmx21枚

4・錦絵・引札・双六・絵葉書・古写真

錦絵名古屋から大坂まで行列図 芳年 名古屋城・大垣城・関ヶ原・彦根城・膳所・大津・伏見・淀城・守口・大坂城京橋口より入城 将軍の上洛を描いたもの 3枚続き

錦絵西条山の軍勢川中島江引返図 貞秀 3枚の1枚

武田信玄公木曾左馬之介責 芳宗 3枚続き 信玄とあるが図中に信玄の姿はない。信勝、勝頼原美濃、穴山梅雪、武藤喜兵衛が見え、山城攻め絵図である。額入り

錦絵新田足利大合戦之図 芳虎 3枚続き

横浜海岸仲通商館築栄之図 国輝 3枚続き

雪月花三部作 武陽金沢八景夜景・木曾路之山川・阿波鳴門の風景 三枚続き3組 木版複製 タトウ、外装入り、解説付き 広重

雪月花三部作内木曾路之山川・阿波鳴門の風景 三枚続き2組 木版複製 広重

引札金沢5枚。大坂1枚

川西祐三郎版画神戸 色紙 1971年以降

錦絵婦人音楽会 延一 3枚続き 明治22年

大日本六十余将下野足利尊氏 芳虎 春亭京鶴記 大判

伊勢名所参宮土産拾二葉 浪華素鳳画 袋付石版画 明治30年

手彩色絵葉書47枚 江戸川・綾瀬・亀戸・不忍池・大磯・三井寺・伏見稻荷・厳島・有馬・水前寺・清水寺・大涌谷・長崎・日光滝等

戦前絵葉書約700枚

戦前絵葉書 下関市街・富山舊船橋・水戸市街・水戸停車場・源平古戦場壇の浦・越中愛本橋・マッチラベル 760枚 戦後

浮世絵の研究 上中下3冊 昭和18年 1000部限定 和装本 藤懸静也

浮世絵聚花全巻 全16巻

紙芝居 教育画劇 16枚組4組12枚組10組

5・軍事資料・武器武具

真田流遠町秘伝・真田流遠町極意之巻 火箭・箭之図（火矢筒）・六分櫓箭道之伝・真田幸村一海野幸吉一森本義〔栗〕一佐伯信貞以下佐伯氏五代一東島直利一三ヶ島良和・天保13年4月28日1842年・附授 福地鹿之助殿 18x182cm

大坪流秘書 折帳 18, 5cmx465cmx両面 馬術秘伝書 弘化4年10月吉田平太定国写 軍馬故実之事 下馬札書様故実之事 鞍馬之起本鏡鞍故実之事 磨墨馬之事 生唆馬之事 馬之事 題字に墨書きあるも摩耗して読めず。

仮鞭免状 弘化5年1848年 鹿島流 門倉源信 42x58cm

矢のようなもの18本 重厚な木箱入 四角錐の矢尻 長さ60cm 矢筈に加工がないため矢としては使えない。

6・城

慶安二年忠晴公福知山御出陣之次第・福知山入御備之図 1649年 文化12年写1815年
篠山城主松平信吉次男忠晴による、福知山城主稲葉紀通不行跡断絶時の福知山攻め行列を描いたもの、篠山藩の陣容を知れる。 25 x 202 cm

城制口決 明和9年1772年 棟居景保記 北條流兵法書

要門解蔽 天保8年1838年 八羽仁貞章記 城取等北條流兵法書

要門伝来聞書 明和6年1769年 南山剛弼近藤^章高撰 北條流兵法書

殿中 江戸城本丸御殿絵図 彩色絵図 41 x 45 cm 天保5年1834年

御庭 江戸城吹上御庭絵図 彩色絵図 38 x 49 cm 天保5年1834年

城郭文献 神奈川の中世城館1-5 (かながわの考古学)・津久井城跡Ⅲ・金沢城研究11-13号・金沢城跡玉泉院丸庭園Ⅰ・金沢城跡橋爪門・金沢城跡石川門附属太鼓塀・金沢城跡二ノ丸内堀菱櫓五十間長屋橋爪門続櫓Ⅱ・城郭石垣の技術と組織・金沢城普請作事資料1・同2・同3御用留並御城方日記・金沢城跡埋蔵文化財確認調査報告書Ⅱ・岡崎市史第2巻第4編城主編岡崎城・

ペーパークラフト 1清須城・2名古屋城・3広島城・4**安土城**・5**岐阜城**・6弘前城・7彦根城・8江戸城・9岡山城・10**佐倉城**・11**長浜城**・12豊臣大坂城・13**伊賀上野城**・14**津山城**・15**忍城**・16駿府城・17津城・18**備中松山城**・19松本城・20姫路城・21復興大阪城・22**沼田城**・23熊本城・24熊本城宇土櫓・25犬山城・26会津若松城・27**大垣城**・28**丸亀城**以上28点揃い総額37584円税込 余りのリアルさと天守だけでなく周辺地形も含まれるものもあり、根拠のない復元に反発を感じつつも見とれてしまった。復元堂とされる城ビジネスは二宮さんのお城ジオラマ復元堂だけと思っていました。そういえば、いただいた資料も復元名城完全ガイドでした。やはり、城ブームですか。必要な方、在庫があれば1式3万円でお世話します。

城絵葉書 **手彩色旧城跡葵神社(明治の飯山城跡遠望、石垣切岸多数)**・金沢城・海津城より鐘楼・鵬城址・報徳の技芸(小田原城内報徳二宮神社3枚)・名古屋城・**海津城跡(天守台を望む本丸内部)**・小諸城不門址・大和柳生4種・松本城西堀・明石城・大阪城・千葉猪熊丘・伏見御香宮大門(旧桃山城大手門)国宝・大坂城豊公館・球磨川人吉梅花の渡(人吉城河岸石垣)・鶴岡名所鶴岡公園の夜桜・熊本城宇土櫓・熊本旧城・水戸城趾・桃山御陵舊千畳敷跡・周防岩国吉香神社・吉香公園・近江彦根城(天守・大手橋・大洞・城山より琵琶湖を望む・八景亭及楽々園書院・彦根城山御野立所)・

7・群馬郷土資料

碓氷関所手形 元治2年 信州善光寺発行 信州善光寺から江戸青山善光寺まで

碓氷横川関所手形 嘉永6年1通・文政8年2通 吾妻郡五町田村西教院等

上野名跡志 上中下3冊 富田永世編 明治15年 和装活字本

8・資料

長野県諏訪郡永明村大正9年10月1日国勢調査台帳 永明村地図付33 x 49 cm 第1回国勢調査

近江商人事績写真帳 昭和5年 和装本上下2冊タトウ入り

あとがき

1・崎田欣二さんから『平成26年度近代化遺産見学会大阪湾の砲台・台場バスツアー平成27年2月25日神戸市教育委員会文化財課』成る資料等を1月ほど前に頂いた。入手、城郭文献は每晚9時から12時の間に順次読んでいるが、ようやく目にした次第。内容は素晴らしいの一語、同時に当文庫所蔵絵図類の公開をする必要に迫られた。『明石海峡沿岸深淺絵図』、『文久3年由良浦高崎砲台之図』徳島藩作成『文久3年岩屋浦松尾(ママ)砲台図』等未整理の最近世城郭資料である。和田岬の

公園時代の地図にも砲台が描かれていた。大阪湾防衛、魅力あるテーマである。

2・秋のシンポジウムが目白押しである。9月12日織豊城郭研究会、9月21日城郭遺産による街づくり協議会、10月17日日本考古学協会奈良大会、10月24日第22回全国山城サミット、8月に中世城郭研究会が終了したばかり、夏の城郭界は隆盛を極めている。

3・城郭研究家の活躍に触れる機会が増えた。毎晩9時から12時は読書タイムにしている。ほとんどの本は書かれている内容が理解できる程度に読み込み、解説書類は1晩に10冊以上は見ることが出来る。ところが、中世城郭研究会や城郭談話会、織豊城郭研究会等の最新情報を駆使した論文類は1冊読み切るのに数日を要する。40代から50代の研究者の功績である。その頃私は仕事に没頭していた。東京へ赴任してから30年ほどが多忙を極めた城郭空白地帯である。この間の城郭研究の進歩は目まぐるしい。縄張調査は全国に行きわたり、分析研究が盛んに行われている。この空白は取り戻しがたい。年齢的にも今更、縄張調査でもない。30年傍らで行った城郭資料探索の継続は可能である。城郭研究家による城郭資料コレクションが研究に寄与することも可能である。全国の城郭絵図展開催であり、各種学会紙への資料紹介である。42年前のバイタリテイが今再現できるとは思えない。67歳という年齢は城郭世界に何を残そうかと考える年かもしれない。20歳の精神年齢による煮えたぎる城への情熱は爆発寸前であるが、記憶力と体力が減退している。成長して独立する子供たち、初孫を見るにつけ、仕事としてきた印刷産業の隆盛を見るにつけ、それぞれ、自分のいない世界は構築できた。後は24時間城あるのみ。

5・書庫の整理

3階からの撮影用に考えた2階のホールも「上州動乱 絵図にみる戦国城館」展を最後に資料で埋まっている。来客宿泊用の和室も収蔵庫である。額室も地図室も踏み込めない。夏を利用して、来客も多数あり、日夜片づけた。調査できる環境にはできた（資料があるところにある状態）が、それでも、ホールも客室も埋まっている。古書同好会や骨董市出展のための資料が山積みになっている。当面、城郭以外の資料は放出したい。額類、軸類もようやく分類整理した。嵩張る不要品を処分することにし、元の状態に戻したい。と思っけていても、昨日も大型の車一杯に及ぶ『箱根登山鉄道鳥瞰図原画』を購入した。博物館機能を取り戻すのは何時の事かわからない。

6・同好会目録の受注が盛況である。

8月末に発行された古書同好会目録は480点の古文書等（武術書等）を掲載した。全国2千数百通の配布の効果は大きい。大学等全国から引き合いをいただく。ただ、同じものに発注が重なる。申し訳ないが、ほとんど、オンリーワン。一点限りです。お詫びするしかない。今後も数百点の江戸図、道中図、東京図、海図、地形図等城郭絵図以外はいったんすべて処分し、埋もれているスペースを開けたい。額室はようやく整理できた。城の日本画、洋画、版画、中国画、錦絵、欧版地図、欧版日本地図、ポスター、屏風等である。いずれ、目録を作成したい。後、未整理の中心は数百本に上る掛軸類がある。城と地図の掛軸が大半であるが、これも主要なもの以外は処分していきたい。

発行所

しろはく古地図と城の博物館 富原文庫

379-0109

群馬県安中市秋間みのりが丘5-73

090-2722-4689(しろはく)

FAX027-315-4689(しろはく)

shirohaku@kym.biglobe.ne.jp

ミュージアムショップ

古地図と城 古書肆 城郭文庫

大坂城丁場割図 昭和45年頃富原模写

